

# RELEASING PAPER THAT CAN BE TORN WITH HAND IN THE SAME DIRECTION TO SHEET ADHESIVE

**Publication number:** JP10325100

**Publication date:** 1998-12-08

**Inventor:** TAKANO TOSHIMITSU

**Applicant:** TAKANO TOSHIMITSU

**Classification:**

**- international:** C09J7/02; D21H27/00; C09J7/02;  
D21H27/00; (IPC1-7): D21H27/00;  
C09J7/02

**- European:**

**Application number:** JP19970175115 19970527

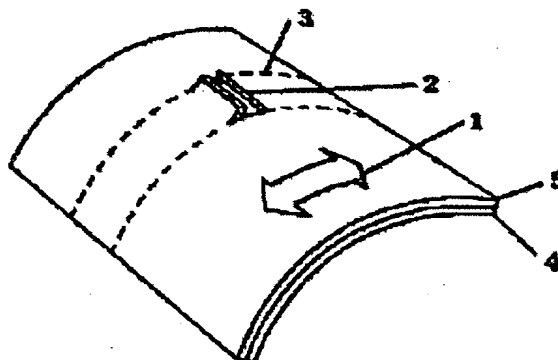
**Priority number(s):** JP19970175115 19970527

**Report a data error here**

## Abstract of JP10325100

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To obtain a releasing paper that is adaptable to sheet-form adhesive and can be torn with hand in the same direction.

**SOLUTION:** A slit 2 is formed on a releasing paper 5 for cut-opening so that the paper may be torn with hand in the same direction. Or the cut-opening piece is made overlapped.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-325100

(43) 公開日 平成10年(1998)12月8日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

F I

D 2 1 H 27/00

D 2 1 H 5/00

B

C 0 9 J 7/02

C 0 9 J 7/02

Z

審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号

特願平9-175115

(22) 出願日

平成9年(1997)5月27日

(71) 出願人 595083017

高野 敏光

静岡県駿東郡清水町徳倉字仲田1083-4

(72) 発明者 高野 敏光

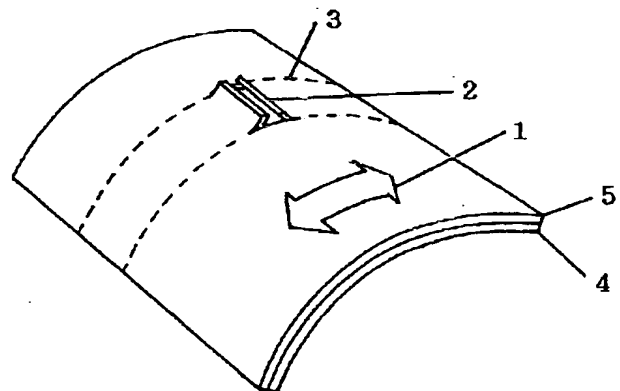
静岡県駿東郡清水町徳倉字仲田1083-4

(54) 【発明の名称】 シート状粘着体の同一方向に手で切れる剥離紙

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、シート状粘着体に採用可能な同一方向に手で切れる剥離紙の提供を目的とする。

【解決手段】 同一方向に手で切れる剥離紙5に切り口用スリット2を施す。又は切り口代をオーバーサイズ7にする。



**【特許請求の範囲】**

【請求項1】 切れる方向(1)の直角に、切取る幅のスリット(2)を施した、シート状粘着体の同一方向に手で切れる剥離紙

【請求項2】 切れる方向(1)の端に、切れる方向(1)のスリット(2)を施した、シート状粘着体の同一方向に手で切れる剥離紙

【請求項3】 切れる方向(1)の端がシート状粘着体(4)よりオーバーサイズ(7)のシート状粘着体の同一方向に手で切れる剥離紙

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は、はじめの切取りが容易な、シート状粘着体の同一方向に手で切れる剥離紙に関するものである。

**【0002】**

【従来の技術】従来、手作業で、シート状粘着体を被着体に位置決めし、きれいに貼り付けることは面積が大きくなるほど大変難しかった。その理由は、1枚ものの剥離紙をはがしながら被着体に位置決めし、全体の歪みを整えながら作業を進める時、不意の接触により貼り付いてしまうことが多く位置ずれ、エア噛み込み、しわとなり失敗していた。よって、一部のシート状粘着体の剥離紙には、直線スリットを中央部に入れて分割し、片方ずつ貼り付けられるようになっているものがあるが十分ではなかった。そこでスリット数を増やし、帯状に中央部から段階的に剥離紙をはがせるようにすれば貼り付け作業性は格段と向上するが、剥離紙が過剰にはがれやすくなり、取扱いにくくなる問題がある。一方、粘着発泡ボードの中には同一方向に手で切れる剥離紙が採用され、剥離紙を切れる方向の中央部から両側に必要な寸法で順次帯状に切取り、段階的に被着体を貼り付けて、位置決め、きれいな貼り付けを可能にしたものがある。そこで、この同一方向に手で切れる剥離紙をシート状粘着体にも採用すれば前述の問題解消が図れるが、この同一方向に手で切れる剥離紙の切りはじめは、端を粘着体から手ではがして切り口をつけるため、シート状粘着体と剥離紙のように端がはがしにくいものには採用できないのが実情であった。

**【0003】**

【発明が解決しようとする課題】そこで本発明は、同一方向に手で切れる剥離紙をシート状粘着体に採用できるように、同一方向に手で切れる剥離紙に容易に切り口をつけられ、切取れるようにすることを目的とする。

**【0004】**

【課題を解決するための手段】前述の目的を達成するために、請求項1記載の発明は、シート状粘着体4の同一方向に手で切れる剥離紙5に、切れる方向1に直角に、切り口用のスリット2を施したことを特徴とする。請求項2記載の発明は、シート状粘着体4の同一方向に手で

切れる剥離紙5の切れる方向1の端に、切れる方向1の切り口用スリット2を施したことを特徴とする。請求項3記載の発明は、シート状粘着体4の同一方向に手で切れる剥離紙5の切れる方向1の端を切り口代として、シート状粘着体4よりオーバーサイズ7にしたことを特徴とする。

**【0005】**

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図示例に基づいて説明する。

【0006】図1は、請求項1の実施の形態を示すもので、シート状粘着体4の同一方向に手で切れる剥離紙5の中央部に、切れる方向1に直角にI形のスリット2を施したもので、この部分をスリット2方向に山折にし、スリット2切り口代を立ち上がらせて手でつまみ、それぞれ反対方向に破線で示した切取り線3のところを帯状に切取り、粘着面を露出させる。次に図2に示すように、粘着面側を被着体6に合わせて位置決めし、露出した粘着面を上から圧着して貼り付ける。続いて、内側から順次剥離紙を帯状に切取りながら貼り着けていく。このように、シート状粘着体4を適当な面積ごと中央部から段階的に貼り付けができるので、位置ずれ、エア残り、しわなくきれいに貼ることが可能である。

【0007】なお、切り口スリット2の形を例示ではI形を示したが、このほかにもS、Z、鉤形等のように、切り口スリット2部をスリット2方向に山折にした際には、切り口代の立ち上がりがよくて手でつまみ易く、一方、切れる方向1の曲がりではめくれにくい形が望ましい。また、スリット2の寸法、方向、位置、数は目的に応じて任意に施すことができるのでロールタイプの粘着体、ワープロ、コピー用粘着シートなどへの加工も可能である。

【0008】図3は、請求項2の実施の形態を示すもので、シート状粘着体4の同一方向に手で切れる剥離紙5の切れる方向1の端に、任意間隔で数ミリの切れる方向の切り口用スリット2を施したもので、この部分を切れる方向に山折にし、スリット2切り口代を立ち上がらせて手でつまみ、破線で示した切取り線3のところを帯状に切取り、粘着面を露出させる。その後の貼り付け作業は図2に示すものと基本的に同じである。

【0009】図4は、請求項3の実施の形態を示すもので、シート状粘着体4の同一方向に手で切れる剥離紙5の切れる方向1の端をシート状粘着体4より数ミリオーバーサイズ7にし、ここに手や鉋で切り口をつけて、破線で示した切取り線3のところを帯状に切取り、粘着面を露出させる。その後の貼り付け作業は図2に示すものと基本的に同じである。

**【発明の効果】**

【0010】以上述べたように本発明は、従来シート状粘着体に採用が難しかった同一方向に手で切れる剥離紙をスリットを施す、サイズを大きくすることで、はじめ

の切取りを容易にし、採用を可能にした。よって、同一方向に手で切れる剥離紙の特徴である剥離紙を同一方向に必要寸法で順次帯状に切取ることができることを活かして、シート状粘着体を被着体に楽に位置決めし、失敗なくきれいに貼り付けることができるようになった。

【図面の簡単な説明】

【図1】請求項1の実施形態の斜視図である。

【図2】シート状粘着体を被着体に貼り付け中の斜視図である。

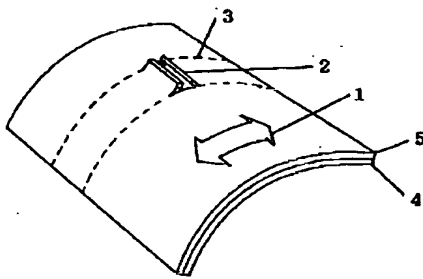
【図3】請求項2の実施形態の斜視図である。

【図4】請求項3の実施形態の斜視図である。

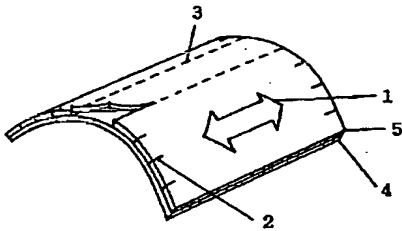
【符号の説明】

- 1・・・切れる方向
- 2・・・スリット
- 3・・・切取り線
- 4・・・シート状粘着体
- 5・・・同一方向に手で切れる剥離紙
- 6・・・被着体
- 7・・・オーバーサイズ

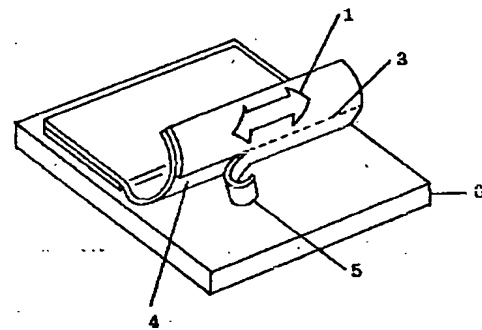
【図1】



【図3】



【図2】



【図4】

